

滋賀県立総合病院における画像診断報告書の調査結果について

滋賀県立総合病院で、コンピューター断層撮影(C T)検査を行った際に、画像診断報告書(画像レポート)の確認不足により、適切な治療機会を逸した事案が2018年11月以降3件判明したことから、過去の画像診断報告書の調査を行いました。

その結果、画像診断報告書の確認不足により、適切な治療機会を逸した事案が、1件判明しました。なお、当該患者様は既にご逝去されています。

患者様のご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆様にご心からお詫び申し上げます。また、当院への信頼を損ねる結果となったことに対し、県民の皆様にご深くお詫び申し上げます。このことを深く反省し、再発防止に向けて、職員一同、全力で取り組んでまいります。

1 調査内容

(1) 調査対象

2014年1月1日から2019年12月31日までに実施したC T検査、M R I検査、P E T検査および胸部単純レントゲン検査における画像診断報告書(227,174件)。

(2) 調査方法

検査を依頼した診療科において、画像診断報告書について適切に対応されているか調査しました。

(3) 調査実施期間

2019年6月から2020年2月まで。

(4) 調査結果

調査の結果、2014年当時、画像診断報告書を確認していなかったため、10か月の診断の遅れを招き、適切な治療機会を逸した事案が1件判明しました。

2 事案の概要

(1) 患者様

60歳代(2017年時点) 男性

(2) 経過

2014年

循環器内科受診の際に、膀胱癌を疑わせるC T検査の画像診断報告書の記載があったにもかかわらず、医師がこれを確認していなかったため、診断および治療が10か月遅れました。

2015年

泌尿器科受診の際に膀胱癌と診断され、以後、当院で治療されました。

2017年

患者様は、膀胱癌によりご逝去されました。

(3) 今後の対応

ご遺族に対して病院として誠意をもって対応します。

10 か月の診断の遅れが患者様の予後に与えた影響については、医療事故調査等支援団体の支援をいただきながら、評価します。

3 背景・要因

画像診断報告書の確認不足が起きた主な背景・要因としては、次のようなものがあると考えております。

- ・ 画像検査を依頼した医師は、検査の主たる目的にしか注意が向いていなかった。
- ・ 画像で検査目的の部位を見て患者に説明した際、画像診断報告書が作成されておらず、その後確認を怠った。
- ・ 未読の画像診断報告書があることをシステムにより確認できる仕組みがなかった。
- ・ 診療科間の連携不足があった。

4 再発防止策

(1) 画像診断報告書の改善を図る。

想定外の新規悪性腫瘍が疑われた場合は、画像診断報告書で文字を大きく、赤字で報告し、悪性腫瘍が疑われる場合は「悪性疑い」等と明確に表記しています。

(2) 既読管理システムの確認を徹底する。

当院では、2018年2月から電子カルテにおいて、既読管理システム（画像診断報告書の未読既読を一覧で確認できるシステム）を導入していますが、その確認を徹底します。

具体的には、副院長が月ごとに既読管理システムの閲覧状況とその後の対応の確認を行い、診療部長会議で報告し改善を促すとともに、画像検査を依頼した診療科で責任をもって既読管理システムの確認を徹底しています。

(3) 画像診断報告書のチェック体制を新たに構築する。

想定外の新規悪性腫瘍が疑われた症例がみられた場合、放射線診断科から副院長に報告し、副院長が電子カルテで当該症例の診療経過を管理しています。

また、画像診断報告書の確認の徹底を図るため、診療情報管理士を担当者として配置してチェック体制を強化します（2020年4月から実施予定）。

(4) 電子カルテシステムを改善する。

電子カルテシステムを起動した都度、トップ画面に、未読の画像診断報告書がある場合その旨を知らせる画面がポップアップされるように改修します（2020年3月中に実施予定）。

【参考】医療法（抜粋） 医療事故調査等支援団体

第6条の11

2 病院等の管理者は、医学医術に関する学術団体その他の厚生労働大臣が定める団体（法人でない団体にあつては、代表者又は管理人の定めのあるものに限る。次項及び第6条の22において「医療事故調査等支援団体」という。）に対し、医療事故調査を行うために必要な支援を求めるものとする。

3 医療事故調査等支援団体は、前項の規定により支援を求められたときは、医療事故調査に必要な支援を行うものとする。

電子カルテシステム改善のイメージ

The screenshot displays the EMR system interface. On the left is a vertical navigation menu with icons for various functions like '記事入力' (Article Input), '看護記録' (Nursing Record), '部門記録' (Department Record), '文書入力' (Document Input), 'フォルム...' (Form...), 'パス適用' (Apply Path), 'スキャン依頼' (Scan Request), '付箋入力' (Sticky Note Input), '付箋再表示' (Sticky Note Re-display), '他科紹介...' (Referral to Other Dept...), '医療文書' (Medical Document), and '紹介文書' (Referral Document). The main window shows a search filter for '全科' (General Practice) and a date range of '2019/01/11 ~ 2019/01/11'. A search results window is open, displaying a table with the following data:

NO	検査結果項目	患者名	オーダ依頼日	依頼科	依頼医師	患者	転送
1	放射線レポート	テスト 91	2018/12/13	内科	テスト 医師	カルテ	⇒
2	検査結果	テスト 3	2018/12/21	内科	テスト 医師	カルテ	⇒

At the bottom of the interface, there is a menu with options: '処方' (Prescription), '注射' (Injection), '検査' (Examination), '画像' (Image), '汎用' (General), '指導' (Guidance), '病理' (Pathology), 'リハビリ' (Rehabilitation), '輸血' (Blood Transfusion), '食事' (Diet), '栄養指導' (Nutritional Guidance), and '指示コメント' (Instruction Comment). The patient name '成人 太郎' and date '2020/03/02' are visible at the bottom left of the main window.

電子カルテにログインしたタイミングで未確認の結果がある場合、
未読一覧画面が自動起動する